

コアシンポジウム 4

「消化管腫瘍学の新展開【上部消化管腫瘍に対する内視鏡治療の最前線】」

主司会 引地 拓人（福島県立医科大学附属病院内視鏡診療部）

副司会 佐々木文郷（鹿児島大学病院消化器内科）

上部消化管腫瘍に対する内視鏡治療は、技術的進歩とデバイスの改良により著しい発展を遂げている。ESD は、開発から約 30 年を経て咽頭や十二指腸の腫瘍に対しても行われるようになった。食道癌に対する PDT や胃上皮下腫瘍に対する EFTR などの高度な治療も行われている。また、創部縫縮も様々な工夫のもと導入されている。本セッションでは、上部消化管腫瘍に対する内視鏡治療の最前線を多角的に捉え、最新の知見と実臨床への応用に関する演題を広く募集する。